HHUA（RCB0658)細胞は、1991 年に寄託を受け、「ヒト子宮内膜癌由来細胞株」として頒布してきました。2005 年に実施しました誤認細胞排除検査（Short Tandem Repeat（STR）多型解析：当時は 8 箇所の多型解析）では、他の細胞株との誤認（取り違え）はない細胞であると判断して頒布をしてきました。
2011 年より 16 箇所の STR 多型解析（より精度が高い）を導入し、新規の提供用ロットを生産した細胞株につきましては 16 箇所の STR 多型解析を実施してきました。最近実施した HHUA 細胞の STR 多型解析にて、HHUA 細胞は、JCRB 細胞バンクが頒布している「ヒト子宮内膜癌由来細胞株」の SNG-M (JCRB0179)細胞と同じ患者由来の細胞株であると判断されました。

SNG-M 細胞と HHUA 細胞とは同じ研究者によって樹立された細胞株であり、SNG-M 細胞は 1990 年に JCRB 細胞バンクに寄託され、HHUA 細胞は 1991 年に理研細胞バンクに寄託されました。
SNG-M 細胞の樹立論文発表は 1977 年であり、HHUA 細胞の樹立論文発表は 1984 年であり、後で樹立された HHUA 細胞が SNG-M 細胞の取り違え細胞である可能性が高いと推察されます。しかしながら、両細胞株樹立から細胞バンクへの寄託まで（6 年間）、樹立者の研究室において両細胞株が同時に使用されていたという事情があり、現時点で樹立者は両細胞株とも所有しておらず、元になった癌組織も存在せず、どちらが真の細胞株であるかを科学的に実証することは不可能な状況です。
寄託者及び JCRB 細胞バンクと相談し、HHUA（RCB0658)細胞と SNG-M（JCRB0179）細胞の今後の頒布について、以下のように対応することといたしました。
既に、両細胞株を使用した論文が多数発表されており、また、両細胞株とも「ヒト子宮内膜癌由来細胞株」として頒布してきたという事実を勘案し、両細胞株が同じ患者由来であることを明記したうえで、両細胞株の頒布を継続する。